

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2021.04 >

BULLETIN

2020年7月～2021年6月



国際会長 Jacob Kristensen「VALUES , EXTENSION and LEADERSHIP」(デンマーク)
アジア太平洋地域会長 David Lua「Make A Difference / 変化をもたらそう」(シンガポール)
東日本区理事 板村哲也「Let' enjoy Changes / 変化をたのしもう！」(東京武蔵野多摩)
関東東部部長 柿沼敬喜「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」(東京グリーン)
クラブ会長 西澤紘一「ワイズの絆を広げよう」(東京グリーン)

会長 西澤 紘一
副会長 浅見 隆夫
副会長 青木 方枝
書記 布上征一郎
会計 青木 方枝
監事 柿沼 敬喜
担当主事 木村 卓司

4月 イースター<今日もハレルヤ！>

ダビデとイスラエルの家はこぞって喜びの叫びをあげ、角笛を吹き鳴らして、
主の箱を運び上げた。

(サムエル記下6:15)

2021年04月第一例会

LT & RBM 強調月間



ZOOM オンライン例会

日時:2021年4月21日(水) 15:00~17:00

Zoom 司会:布上君
開会点鐘 西澤会長
聖句・お祈り 西澤会長

今月の一言 西澤会長
関東東部第3回評議会 報告 柿沼部長
フリートーク 発言希望のメンバー
「関東東部EMCを考える集い」/第3回評議会
今後の例会・委員会の在り方/区の行事など

神田川船の会開催検討 目黒委員長
YMCA 情報 木村君
Happy Birthday(4月の該当者はおりません)
閉会点鐘 西澤会長

ロールバック・マラリア(RBM)

<4月強調月間テーマ>

4月25日は世界マラリアデーです。この日は、マラリアの
予防と制御のために継続的な投資と持続的な政治的な責任
を果たしていくことが必要であることを強調する機会です。

マラリアは、感染したメスのハマダラ蚊に刺されることで人
に感染する、寄生虫によって引き起こされる生命を脅かす
病気です。マラリアは、予防と治療が可能な病気です。

ワイズメンズクラブ国際協会は、2008年から、マラリアと
の世界的な闘いを支援するため、募金活動や啓発活動を行
っています。

クラブや会員の皆さまに RBM への寄付を奨励するた
め、国際協会では 100 米ドル以上の寄付をしていただ
いた方に、その善行を称える「功労賞」を授与しています。

クラブメンバーや友人の皆様には、クラブや区を通じた
RBM 基金へのご寄付をお願いいたします。

トニー・リャオ RBM 国際/地域事業主任

(国際ニュース4月号より抜粋)

【例会出席率】

在籍: 16名 メーキャップ2名 出席率 11/16 69%

出席: 3月17日(水) Zoom 例会 9名接続参加

【ニコニコ】 3月はZoom例会 ニコニコはありません。

2021年03月 第一例会報告

3月17日(水)ZOOMにて 15:30-17:00 例会を開催

出席者:青木・浅見・柿沼・木村・布上S・布上N

西澤・樋口・目黒 9名



① 関東東部EMC考える集い」を3月28日(日)

15:00-17:00 Zoomにて開催する。

クラブ参加:青木・浅見・柿沼・佐野・西澤・布上・樋口

② 4月17日(土)関東東部 第3回評議会を開催予定。

(会議の形式はZoomハイブリッドを東陽町で設定)

③ 上記月17日の第3回評議会で大久保次期理事に

ZOOMで講演をお願いした(了承済み)

お話は「東日本区の法人化(一般社団法人)」

④ 3月21日(日)親子で巡る神田川周遊クルーズは

コロナ関係の緊急事態が21日まで延長になったこと

で、クルーズを中止としたい。(YMCAの意向あり)

⑤ 今年の「神田川船の会」は5/8, 10/9の共に第二土

曜日を予定していたが、コロナ次第で変更する。

<神田川船の会>実行委員長目黒メンより、具体的な
コロナ情勢資料を配付して、現在の“船”を巡る状況
と題して貴重な提案があった。

結論として3月21日の「緊急事態」宣言次第で。

⑥ 6月4日(金)に予定されている「田園調布学園クル

ーズ」は学校としては積極的な意向であるが、いず
れにしても「コロナの情勢次第」とならざるを得ない。

⑦ 5月23日に延期の「京都パレス50周年記念例会」

へのクラブ参加は消極的。今少し様子を見るが・・・

(出欠の確定及び登録費振り込みは4/20までに)

⑧ 第24回東日本区大会はリモート・ハイブリッドで開催

1. 日時:6月12日(土)13:00~16:30

2. 場所:山梨県甲府湯村温泉郷 常盤ホテル

3. ホストクラブ:甲府21クラブで

4. 開催方法:ハイブリッド、日英同時通訳付

5. 主なプログラム:オープニング、開会式、

東日本区アワー①(各種報告、表彰)

東日本区アワー②(理事就任式 / 引継式)、閉会式

6. 参加 / 出席形態

一般会員、来賓、部長・事業主任他報告者リモートで。

(布上 記)

YMCA コーナー

① 3月6日、「第8回日中韓平和フォーラム」がオンラインで開催されました。三カ国から計91名、東京YMCAからも2名の職員が参加。第1部では「はなれていても、つながっている」のテーマのもと、基調講演、各国レポート、平和活動の情報共有を行い、第2部ではユースとシニアに分れてセッションが持たれました。コロナ禍における北東アジアの平和構築に向けて課題が共有され、交流を深めました。

② 3月14日、「第22回 liby チャリティーコンサート」が山手センターを会場に開催され、越智光輝氏(クラリネット)、門倉美香氏(ピアノ)、田口裕氏(チェロ)がベートーヴェンを中心とする器楽曲を演奏し、好評でした。新型コロナウイルス感染防止対応として、会場は人数を限定し、オンラインでも配信を行いました。開催にあたり、三菱商事株式会社に協賛を、株式会社バトンプログラフに撮影協力と後援をいただいた他、東京たんぽぽYサービスクラブや多くのボランティアにも運営に協力をいただきました。

③ 日本YMCAユースボランティア認証として、全国YMCAの16歳から35歳のユース281人が認証されました。東京YMCAの各コミュニティーセンターで活動しているユースボランティア19名も認証を受け、認証カード、ボランティア手帳、記念に書籍が贈呈されました。

④ 春休みのスキーキャンプ(3/26-3/30)を間近に控えた3月23日~25日、東京YMCAのボランティアリーダーたちが志賀高原で、スキーの実技トレーニングをしました。新型コロナの感染対策のため今年はキャンプ数



が少なく、参加したリーダーは10人と少数でしたが、子どもの特徴に合わせた指導法や安全管理をしっかりと学び、スキーリーダーとしての資質をレベルアップしました。子どもたちのスキーキャンプを実施するのは、2019年度の冬休み以来となります。いつも以上に気を引き締めて、良いチームワークをもってキャンプ本番に臨みました。

後の主な行事日程

・「第30回チャリティーゴルフ大会」 4月8日(木)

会場:PGM総成ゴルフクラブ 70名参加で開催


・第18回会員大会 5月22日

(主事木村 記)

関東東部 EMCを考える集い

～E:笑顔で、M:もっと、C:クラブ活動を！～

昨年10月3日の関東東部大会に於いて、新クラブ「千葉ウエストクラブ」のチャーターナイトが行われました。数年におよぶ関係者の皆さんの努力が結実した素晴らしい大会となりました。これを跳躍台として会員増強に弾みをつけるべく「EMCを考える集い」を開くことになりました。

 日 時:2021年3月28日(日)15:00～17:00
形 式: ZOOM会議 (参加者 約50名)

プログラム

開 会: 司会 関東東部書記 布上征一郎(東京グリーン)

1、開会挨拶 関東東部部長 柿沼 敬喜(東京グリーン)
「若いワイズ3名へのインタビューとベテランワイズ3名の新クラブ設立への活動報告、楽しみにしております」

2、参加者紹介(Zoom 画面でご紹介) 司会者

3、挨拶 板村哲也 東日本区理事(東京武蔵野多摩)
「あと3ヵ月少しでも目標に近づくよう
頑張りましょう」



挨拶 栗本治郎 Change! 2022
推進委員会 委員長(熱海)
「QRコードの作成でワイズのアピールを！」



4、なぜ会員増強が必要か／

Change!2022 推進委員会の働き
藤井 寛敏 関東東部推進委員(東京江東)
「Change! のチェンジは一人ひとりが変わろうという事です」

5、関東東部における会員増強の現状と目標
浅見 隆夫 関東東部 EMC 主査(東京グリーン)
「関東東部今期163名目標がまだ、134名です」

6、発表および質疑応答
<1>会員増強(Membership & Conservation)
コーディネーター 次期部長 大澤 和子(所沢)

1) <多くの新会員を紹介したワイズ>

堀江和広 (東京ベイサイド)
「東京江東クラブと東京ベイサイドクラブ
で幼稚園関係のご父兄との交流を元にワイズへの勧誘をしてきました」



2) <最近入会し、積極的に行動しているワイズ>

柳井 恵 (千葉)
「仕事と家庭とは全く違った経験の出来るワイズクラブ活動は貴重です」



3) <元気な交流が目立つワイズ>

樋口順英 (東京グリーン)
「クラブの CS 事業への参加から入会へと繋がりました。もっと他クラブとのコラボ、交流活動をしていきたいと思えます」



<2>新クラブ設立(Extension)

コーディネーター 部会計 長尾 昌男(千葉ウエスト)

1)千葉ウエストクラブ設立について、
何が設立に導いたか

千葉ウエストクラブ会長 高田一彦
「新クラブ設立には人脈の繋がりが如何に重要か・・・」

2)新クラブ設立への鼓動

茨城 YMCA 総主事 宮田康男(茨城)
「牛久地区への新クラブ設立検討をしております」

3)新クラブへの設立に向けて

部エクステンション委員長 金丸満雄(東京ひがし)
「新ルール5名で新クラブ、まずは作って拡大を」

7.まとめ Change!2022 推進委員 藤井 寛敏
「会員増強の必須条件として、クラブの充実、即ち、魅力ある新事業の立ち上げ、クラブの広報 PR、SNSやQRコードの活用、そしてクラブの充実したバックボーンを持って積極的な声掛け、などが大切だと思います。声掛けはリクルートの王道です」

8、閉会挨拶 次期部長 大澤 和子
「本日は多数の皆様にご参加をいただき実のある集いになりました。誠にありがとうございました」



でっちあげ(福岡、殺人教師事件の真相)



福川ますみ(新潮文庫:2009年)
2003年、教師によるいじめ体罰事件が福岡県で起こった。地元の報道機関が取り上げて、「最悪の教師」と決めつけ結果として停職処分になった。被害児童側の保護者は、民事訴訟まで起こしてその教師を追い詰めた。最近よく耳にするありふれた事件のように見えるが、事件の裏に何か秘密がある

ことを嗅ぎ付けたジャーナリスト福川氏が多くの証人に話を聞いて真相を調べ始める。

事件の発端は、いわゆるモンスターペアレントである被害児童の母親が、家庭訪問に来た担任教師の何気ない会話の中のフレーズが差別用語だと腹を立てたことから始まる。一方、小心者であったその児童は、教師の普通の注意やしつけに対しても過剰反応をして大げさに母親に告げる。冷静に考えれば何でもない言葉、行動がまじめ一本の教師とモンスター母親、煮え切らない児童との間でこじれにこじれてゆく。

しかも、学校当局もいったん事態をおさめるために当該教師を担任から外し母親に謝らせた。これですべてが治まったと学校当局も当該教師もホッとしたところに、モンスター母親が民事訴訟を起こしたことを知る。不本意な謝罪強要、「最悪の教師」とレッテルを張るマスコミの攻撃、訴訟を起こしたモンスター母親らの四面楚歌のなかにあって筆者である福川氏が詳細な聞き取り調査を始めた。結局誤解と冤罪であったことが判明したのは、2013年であったと言う。実に問題解決に要した時間は10年である。法的には、事件そのものがなかったことになり、当該教師の名誉は回復されたことにはなったが、「最悪の教師」と名指された事実は、消しようがない。

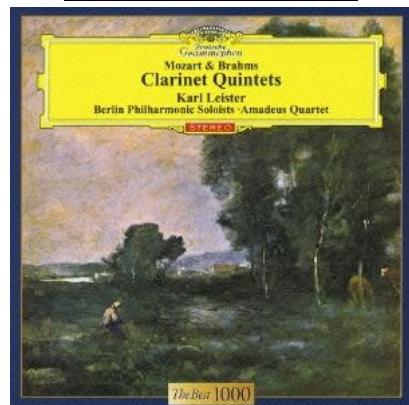
最近散見する満員電車内での痴漢事件などもこの範疇に入る。一見まじめに見えるサラリーマンが痴漢だと糾弾されて世間に晒される様子は、記事としては面白いのであろう。痴漢をやっていないと言う証明は、悪魔の証明と言って不可能に近い。最近では、被害者側の衣服についた犯人のDNA、犯人であれば指や爪の先の超微量痕跡の分析も可能だと聞く。やはり客観的な証拠がない限り、被害者側の証言だけで犯人を特定することは危険である。

このドキュメンタリーでも世間的には弱者である被害児童とその母親の言い分を100%近く信用したことから間違いが起こった。当該教師の行動は、普通の教師が児童に対して行ったものと変わらなかった。教師の暴力でPTSDになったと主張した当該児童は被害妄想の精神障害があったと断定され、その母親も誤解と妄想で自己弁護をしたにすぎないことも判明した。

加害者と被害者の間には、極めて複雑な愛憎が存在することが多い。一方的な正義を振り回すことほど危険なことはないと警告している。(西澤紘一 記)

モーツァルト晩年の美の極致

クラリネット五重奏曲



モーツァルト作曲(1756~1791)

クラリネット五重奏曲イ長調K.581(1789)

クラリネット:カール・ライスター(1937-)

ベルリン・フィルハーモニー・ゾリステン(1965年録音)

春、この時期になるといつも思い出すのがこの曲です。

1968年春、大学受験に失敗したころ心の安らぎを求めて買った初めての室内楽レコードでした。ところが安らぎどころか深く落ち込む曲だと知りました。

当時の「レコード芸術」評では、この曲は楽しさ溢れる曲だとの解説でしたが、私には、哀しい曲としか感じませんでした。ましてや、カール・ライスターの渋くて暗いクラリネット、伴奏者たちのしみじみ表情深い演奏は、私に深い反省の念を与えるばかりでした。でもいまとなってはなんと懐かしい曲でしょう！

とかくモーツァルト晩年の曲は、メロディーや構成はシンプルになり、一見、美しく親しみやすい曲が多いのですが、じっくり聴くとその奥にすごく冷徹で澄み切った空気が流れていると感じています。これこそ彼の到達した美の極致ではないでしょうか。(たとえば、アイネ・クライネ・ナハトムジーク、ピアノ協奏曲第27番、弦楽五重奏曲第4番、などもそうです)

第一楽章:アレグロ はじまりは、ゆったりしたメロディーが弦楽合奏だけで現れ、やがてクラリネットとまじりあいながら展開していきます。出だしが実に暗く哀しく、曲全体を支配するかのようです。

第二楽章:ラルゲット クラリネットとバイオリンとのしみじみとした対話が聴きどころだと思います。

第三楽章:メヌエット 気を取り直したかのように明るく優雅な三拍子の曲です。素直に楽しむひとときです。

第四楽章:主題と6つの変奏曲 第4変奏までは楽しげな主題が表れ、技巧的にもだんだんと難しくなっていきます。一転、第5変奏では哀しく暗くそしてこの上なく切ない曲となり、最後の第6変奏は思い直したように明るく手短かに締めくくります。

(樋口 順英 記)

~ステイホームの読書、音楽鑑賞に最適!~